

# パンキョー革命報告書

(学生・教職員懇談会)



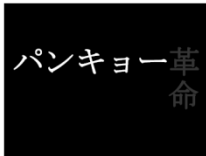
第一次  
パンキョー革命  
2008.07.30(Wed)



大学教育実践センター

パンキョー革命  
ひとこといちば  
ワニバス

報告書  
(2010)



大阪大学 大学教育実践センター 学生参加型FD推進委員会



(学生・教職員懇談会)

パンキョー革命 報告書(2012)



## 『『パンキョー革命(学生・教職員懇談会)』報告書(2012)』の刊行にあたって

日頃は大阪大学・全学教育推進機構の諸事業にご協力いただきまことにありがとうございます。全学教育推進機構は、平成 24 年 4 月に大学教育実践センターを発展的に解消し、大学院を含む教養教育や全学横断的な教育を企画する機能等を持った組織として新たに設置されました。本機構は大阪大学の教育目標である「教養 (comprehensive understanding)」「デザイン力 (design prowess)」「国際性 (transcultural communicability)」を身につけた学生を育成するため、全学共通教育を実施するとともに、その質的向上に取り組んでいます。

Teaching から Learning への転換や学生の視点の取り入れなどが求められる中、大学教育実践センター時代から学生・教員・職員が一体となって、全学共通教育のさらなる改善と発展をめざして取り組んできた重点事業の一つが、「パンキョー革命」の愛称で知られる「学生・教職員懇談会」です。企画・実施にあたっては学生が中心となり、教員と職員がそれを支える三位一体型の教育改善の取組で、全国的にも注目を集めています。機構設置後も「学生参加型 FD 推進委員会」を中心にこの活動を支援して参りました。今後は活動が全学共通教育全体に広がり、初年次から大学院にわたる教育改善がいつそう促進されることを期待しております。

今年度の活動報告書を作成致しましたので、ご高覧いただくとともに、今後ともご支援のほどよろしくお願い致します。

全学教育推進機構長 江川温

## 本書を手にとっている阪大生の皆さんへ

大阪大学の教育は、実は高く評価されているのをご存じですか？ 例えば、「週刊 東洋経済」(東洋経済新報社)平成 23 年 10 月 22 日号では、「本当に強い大学」の 1 つとして大阪大学の共通教育の取り組みが紹介されています。また、「夕刊フジ」(平成 23 年 12 月 7 日版)では、「実力が身に付く大学」の第 1 位に大阪大学が選ばれています。さらに、「産経新聞」では「旬な大学」として大阪大学がシリーズで紹介されています。

とはいえ、満足していない人も少なくないでしょう。「パンキョー革命」は、ただ文句を言うだけでなく、教員や職員と協力しながら、学生の力で阪大の共通教育をより良いものに変えていこうという取り組みです。このような学生主体の教育改善の動きは阪大では以前にもあり、平成 17～19 年には「STAR 阪」という取り組みが、80 年代には人間科学部で「あきらめていませんか？おもしろくない授業」というシンポジウムが学生主催で開催されています。

まだ知らないだけで、他にもこのような活動があったかもしれません。先輩たちの伝統にならって、そして今の「パンキョー革命」メンバーと一緒に活動したい人は、ワニ博士まで是非ご一報下さい (wanihakase@celas.osaka-u.ac.jp)。

全学教育推進機構・学生参加型 FD 推進委員長 服部憲児

## 目 次

1. 「パンキョー革命(学生・教職員懇談会)」について .....	1
(1) 「パンキョー革命(学生・教職員懇談会)」の概要	
(2) 平成24年度の取り組み	
(3) 「パンキョー革命」のこれから	
2. 2012(平成24)年度「パンキョー革命」の活動記録 .....	4
(1) 各種イベント・学外交流など	
(2) 準備会など	
3. 「パンキョー革命」各種活動の報告 .....	5
(1) 「第6回学生・教職員懇談会(第6次パンキョー革命)」実施報告	
(2) 山内太地氏講演録	
(3) 「キャンパスライフデザイン(CLD)～新入生ガイダンス～」実施報告	
(4) 「学生FDサミット・2012夏」参加報告	
(5) 「ひとこといちば2012後期」実施報告	
4. 「パンキョー革命」各種活動のチラシ・ポスター類 .....	28
5. 「パンキョー革命」関連文章類 .....	29
(1) 平成24年度分	
(2) 平成23年度までの関連文献	
6. 「パンキョー革命」に関連する活動等 .....	30
(1) 「共通教育プロジェクトルーム」の新設	
(2) 「双方向型シラバス(ワニバス)」作成プロジェクトの進捗状況	
(3) 「阪大生活」改訂版	

「パンキョー革命」推進チーム・平成24年度メンバー

## 1. 「パンキョー革命(学生・教職員懇談会)」について

### (1) 「パンキョー革命(学生・教職員懇談会)」の概要

「パンキョー革命」(正式名称は「学生・教職員懇談会」)は、学生と教職員が大阪大学の共通教育の在り方を立場を越えて自由に語り合うイベントである。この企画・実施のために学生・教職員で構成される組織が「パンキョー革命推進チーム」(以下、推進チーム)であり、企画・運営段階からの対話型・学生参加型・三位一体型のFD・SDを目指している。推進チームは、大阪大学の共通教育のより良い在り方を、学生と教職員が対話をしながら共に考えていくために、様々なイベントの企画・実施や改善案の提案・実行を行っている。そして、これらを通して「阪大文化」の創造を目指している。「パンキョー革命」は、広義には推進チームの活動の総体を指す場合もある。イベントとしての「パンキョー革命」は全学教育推進機構<sup>1)</sup>(以下、機構)の主催であり、推進チームの活動は機構の学生参加型FD推進委員会が支援を行っている。

「パンキョー革命」イベント(当初は「学生・教員懇談会」)が初めて開催されたのは平成20年7月である。この年は、大阪大学と大阪外国語大学の統合後、初めて共通教育の授業が行われた年である。そのため、統合がもたらした共通教育へのメリットや課題はどのようなものであったかを検討する必要があった。ある共通教育担当教員から「学生については統合により相乗効果が見られる一方で、教員についてはまだ十分に統合の効果が認識されていない」という指摘があった。当時共通教育担当部局であった大学教育実践センターがこれを受けて、学生と教員が本音で語り合う場を設け、相互に各人の意識を高め、よりよい共通教育を構築することを目指して、第1回のイベントを企画した。これが「パンキョー革命」が始まったきっかけである。

第1回イベントは教員主導で企画・運営を行った。しかしながら、特に広報の面で上手くいかなかったため、学生の助けを借りて何とか成功させることができた。第2回イベントでも同様に学生の助けを借りながら実施したが、終了後の反省会で「せっかくだから、企画段階から学生・教員・職員で一緒にやってはどうか？」という話になり、懇談会準備会を設立し、企画運営段階から対話型・学生参加型の活動を展開することにした。この準備会で会の名称を「学生・教職員懇談会」に改め、さらに愛称を第1回イベントのポスターで使われた「パンキョー革命」とすることにした。そして、準備会も後に「パンキョー革命推進チーム」の名称とすることになった。これまでこのイベントを6回開催し、他に各種関連イベントの企画・実施や、推進チームの学生メンバーを中心にイベントでの議論を踏まえて共通教育の改革提言「パンキョー革命提議書」(平成22年2月の実現に向けての活動を行っている。

### (2) 平成24年度の取り組み

平成24年度は、前期においては毎年恒例の「パンキョー革命」イベントの開催、後期において

---

1)平成24年4月に大学教育実践センターを発展的に解消して設置された。<http://www.celas.osaka-u.ac.jp/>参照。

は「パンキョー革命提議書」第2号の作成と「ひとこといちば」の実施に取り組んだ。「第6次パンキョー革命」は、グローバル化の社会情勢や大学教育の実質化という政策動向などを踏まえ、「阪大を変える！世界一に変える！」をテーマとして設定した。ジャーナリストの山内太地氏の講演（「真の『パンキョー革命』のために～日本の大学の現状と問題点及び海外大学先進事例紹介～」）を拝聴した後、「大阪大学が2031年に世界で10番になるために、学生・教職員・大学は何をしていかなければならないか？」をテーマに話し合いを行った。

「提議書」第2号の作成は夏休み頃から取りかかった。今回はテーマを絞って現状把握のための調査を実施し、それを踏まえての改革提言を行う予定である。本報告書の作成と並行して、学生を中心に執筆が行われている。また、1年間途絶えていた学生・教職員交流イベント「ひとこといちば」を推進チームで復活させ、実施することとした。今年度は計7回開催した。

これらも含め、今年度実施したイベントやプロジェクト等は以下の通りである（企画段階のものも含む）。

#### ○第6回学生・教職員懇談会（第6次パンキョー革命）

パンキョー革命のメインの活動であり、より良い共通教育の在り方について学生と教職員で立場を超えて自由に話し合うイベントである。今回は山内太地氏の講演をもとに、ディスカッションを行った。参加者は65名（学生40名、理事1名、教員12名、職員6名、学外者6名）を数えた。

#### ○キャンパスライフデザイン（CLD）～新入生ガイダンス～

単なる学生生活のノウハウだけではなく、新入生が自分のキャンパスライフをこれからどのように作り上げていくかについて考えるきっかけを与え、自分にとっての大学生活の意義を見出してもらうことを目的に毎年4月に開催している。

#### ○ワニゼミ（ワニ着ぐるみプロジェクト）

大阪大学のマスコット・キャラクターである「ワニ博士」の着ぐるみを活用して、イベントに対するイメージアップと参加促進を図り、阪大を盛り上げていくプロジェクトである。全学教育推進機構主催イベントへの参加や広報活動への協力を行う。

#### ○ひとこといちば

昼休みを利用した学生・教職員の交流イベントである。1年間休止していたが、推進チームが今年度後期より復活させた。開放型セミナー室で毎週月曜日に阪大教員をゲストに迎え、講話と対話を組み合わせる形で行われた。

#### ○「パンキョー革命提議書」第2号の作成

阪大の共通教育の改善を目指し、学生の立場から改革提言をまとめたものである。第1号が出されてから3年になることから、第2号を作成することにした。今回はテーマ（TA・LAの活用など）を絞って、実態調査を実施し、それをもとに提言を行う形にした。

#### ○学生FD・教育改善勉強会

パンキョー革命を推進するために必要な知識を学ぶために、勉強会を開催した。第1回は「学生FD

および FD について」(3/19・26：参加者 9 名)、第 2 回は「中教審『審議のまとめ』を読む」(5/18：参加者 11 名)、第 3 回は「学生像の変遷について」(6/22：参加者 7 名)であった。

上記に加えて、学外交流にも取り組み、学生 FD サミット 2012 夏(8/25-26 @立命館大学)、学生 FD サミット 2013 春(3/5-6 @岡山大学)に参加し(執筆時点で予定を含む)、報告等も行った。

### (3)「パンキョー革命」のこれから

#### ①課題の解決

昨年度の報告書で書いたように、「パンキョー革命」の取り組みには、参加学生層の拡大、有効な広報の実施、活動内容の充実といった課題がある。これらはなかなか解決が難しい問題であり、実際のところ 1 年経って大きな進歩があったとは言い難い。引き続き有効な対策を考えていきたい。

#### ②プロジェクトルームの有効活用

今年度、ステューデントコモンズに隣接する一角に、「共通教育プロジェクトルーム」が開設された。これは「学生の課外活動、とりわけ教育・学習に関する活動について支援するために」設置されたスペースであり、推進チームもここを利用して活動を行っている。このような環境を活かして活動に弾みをつけたいところである。

#### ③改組と「パンキョー革命」

上にも示したように、旧実践センターが低学年次の共通教育を対象としていたのに対して、機構は初年次から大学院までを対象とする共通教育が守備範囲となる。これまでの推進チームの活動は低学年次の教育を主眼に置いてきたが、このままで活動を続けるのか、全学的教育改善を視野に入れるのか、メンバー間でも考える必要性を感じている — 実際に、今回のパンキョー革命イベントのテーマは、必ずしも低学年次の教育に限らない話になっている。後者の立場を取るのであれば、「パンキョー革命」という愛称も再考の対象となつてこよう。

(服部憲児)

## 2. 2012(平成24)年度「パンキョー革命」の活動記録

### (1)各種イベント・学外交流など

#### ○平成24年

4月5・6日：「新入生ガイダンス～キャンパスライフデザイン～」開催

6月28日：「第6回学生・教職員懇談会（第6次パンキョー革命）」開催

8月25・26日：「学生FDサミット2012夏」（立命館大学）参加・報告（参加者8名）

#### ○平成25年

2月28日：「パンキョー革命提議書」第2号刊行予定

3月5・6日：「学生FDサミット2013春」（岡山大学）参加・報告（参加者5名+ワニ博士）

※執筆時点での予定を含む。

### (2)準備会など

#### ○平成24年

4月12日：「第6回学生・教職員懇談会（第6次パンキョー革命）」準備会

4月19日：準備会

5月10日：〃

5月17日：〃

6月7日：〃

6月14日：〃

6月21日：〃

7月5日：「第6次パンキョー革命」反省会

7月12日：後期活動についての議論

7月19日：〃

8月2日：〃

8月8日：〃

9月7日：「提議書」第2号および「ひとこといちば」準備作業

9月21日：準備作業

10月4日：〃

10月11日：〃

10月18日：〃

10月25日：〃

11月1日：「ひとこといちば」反省会

11月8日：「提議書」第2号準備作業

11月14日：「ひとこといちば」反省会

11月15日：「提議書」第2号準備作業

11月21日：「ひとこといちば」反省会

11月22日：「提議書」第2号準備作業

11月29日：〃

12月5日：「ひとこといちば」反省会

12月6日：「提議書」第2号準備作業

12月13日：「ひとこといちば」全体総括

12月20日：「提議書」第2号準備作業

#### ○平成25年

1月10日：「提議書」第2号準備作業

1月17日：〃

1月24日：〃

1月31日：〃

2月15日：「提議書」第2号最終調整



### 3. 「パンキョー革命」各種活動の報告

#### (1) 「第6回学生・教職員懇談会（第6次パンキョー革命）」実施報告

2012年6月28日（木）14時より開放型セミナー室（ステューデント・コモンズ1階）にて「第6回 学生・教職員懇談会（第6次パンキョー革命）」を開催しました。このイベントは、共通教育のよりよい在り方を学生と教職員が対話をしながら、共に考えていくために企画されています。今回はグローバル化の社会情勢や大学教育の実質化という政策動向などを踏まえ、「阪大を変える！世界一に変える！」をテーマとして設定しました。参加者は65名（学生40名、理事1名、教員12名、職員6名、学外者6名）を数えました（この他に受付をせずに講演を聴講した参加者が数名います）。

イベントでは、江川温全学教育推進機構長の挨拶の後、大学研究家でフリーライターの山内太地氏より「真の『パンキョー革命』のために～日本の大学の現状と問題点及び海外大学先進事例紹介～」と題した講演が行われました。アメリカの大学教育の現状や日本の大学教育の問題点などについて御紹介いただき、講演後にも活発な意見交換がなされました。

後半のグループワークでは、前半の講演内容を踏まえて、「大阪大学が2031年に世界で10番になるために、学生・教職員・大学は何をしていかなければならないか？」をテーマに話し合いをしてもらいました。各グループでは、双方向型授業・少人数制授業への転換、語学力の強化、授業での留学生との交流、学ぶ意思の涵養といった授業・学習に関すること、学生と教員の交流を深めることなどが議論されました。さらに、全寮制にする、芸術分野を拡充する、上手に寄付を募るといったことも話し合われました。グループワークの結果報告、山内氏のコメント、景品抽選会の後、閉会の挨拶では、東島清大阪大学理事・副学長より、今後も教育改善を進めていきたい旨の締めくくりの挨拶がなされました。

事後アンケートでは、良かった点としてゲスト講演が最も多くあげられていましたが、次いで教職員とのディスカッションや一体感も高い評価を得ました。進行や雰囲気作りに対する肯定的な意見もあり、全体としては企画・運営は上手く行ったと言えるのではないのでしょうか。しかし一方で、開催時間帯の設定、ディスカッションの人数、議論の深め方などについて課題も指摘されました。これらの意見を踏まえて、より多くの幅広い学生・教員・職員を巻き込みながら対話を継続し、さらに広がりのある取組にしていくことで、阪大の教育改善に貢献できるようにしていきたいと考えています。

（服部憲児）



(2)山内太地氏講演録（平成 24 年 6 月 28 日「第 6 次パンキョー革命」での講演）

「真の『パンキョー革命』のために—日本の大学の現状と問題点及び海外大学先進事例紹介—」

山内太地（大学研究者）

大阪大学の皆さん、こんにちは。本日はお招きありがとうございます。パンキョー革命ということで私がお役に立てることがあればと思い、1時間ほどちょうだいしています。学生の方はもうすっかり慣れていらっしゃると思いますが前もって予告しておきます。よくご存じのとおり、日本人は「質問ありますか」といわれても誰も手を上げない民族です。ですので、前もって私が話す1時間のうちに必ずメモ帳に質問を書いていただいて、25分の質疑応答でたくさん手が挙がることを前提に話します。今からそれを皆さんの方で仕込んでください。よろしくお願いします。

話は大きく三つありまして、まず私が2月、3月に取材してきたアメリカのトップ大学、アイビーリーグ各校の授業の話が一つ、もう一つはアメリカで見てきた大学の授業の在り方に対して、では日本はどうしていけばいいのか、最後に皆さんが今後パンキョー革命を進めていくに当たり私が重要だと考えている大学の先生の在り方という三つの話をします。

1.アメリカ・カナダのトップ大学

1-1.東京大学とイェール大学の時間割

冒頭に、東京大学とアメリカイェール大学の1年生の時間割をそれぞれ作ってみました。申し訳ありませんが私は大阪大学について詳しくないため、皆さんは東大生側を参考に見ていただきたいと思います。

東京大学の時間割は朝9時から1限が始まり、夕方まで90分ずつ授業が続いています（スライド1）。語学の授業が4コマあります。皆さんも1年生のころ、あるいは現1年生はいろいろな授業を取っています。

ここでポイントなのは、東京大学においてはなぜか1年生クラスが第2外国語のクラスなのです。ですから、ドイツ語やスペイン語のクラスが1年生のクラスになります。東京大学では英語の授業を1クラス60人でやっています。これを私立大学の先生が聞くと、う

ちが勝ったなどとよく分からないことを言い始めますが、こういっては何ですけれども東京大学の英語の授業が60人で行われているとは、とても世界に誇る英語の授業をやっているとは思えません。皆さんが勘違いしていますが、東京大学の教育水準が世界一かどうか、私は大変疑問に感じます。

		月	火	水	木	金
1限	9:00-10:30		社会Ⅰ	数学Ⅰ	教育臨床心理学	基礎演習
2限	10:40-12:10	認知脳科学			情報	ドイツ語演習
3限	13:00-14:30	心理Ⅰ	体育	英語一列		
4限	14:50-16:20	ドイツ語一列	英語二列	ドイツ語二列	主題科目 東大の心理学	哲学Ⅰ
5限	16:30-18:00		物理科学Ⅰ	ジェンダー論		社会哲学

この学生の時間割は金曜の1限に基礎演習というゼミがあります。これはいわゆるアカデミックリテラシーで、大学での勉強法を学ぶことになってはいますが、私がインタビューしたところでは語学クラスほどは友達同士あまり仲良くなれないそうです。重要な点ですが、東京大学名物として、この時間割のうち体育・語学・ゼミ以外はほぼ100人や200人の大人数講義です。一方的に聞く授業は皆さんも受けられていると思います。

面白いのは、東京大学では第2外国語クラスで試験対策委員、通称「シケタイ」という人を決めます。20人ぐらいいたらあなたとあなたが「シケタイ」と決めます。「シケタイ」が何をするかというと、試験のプリントである「シケプリ」を作ります。例えば、この時間割で数学や社会でAさんとBさんが「シケタイ」になったとします。2人は一生懸命に丁寧にノートを取って、ネット上でクラスの

みんなに共有させます。以前、東大生のノートという本が流行ったと思いますが、なぜきれいに取れるかという、クラスの仲間に写させてあげるためにきれいに取るのです。そして、驚くべきことに東京大学では1年生の全部の授業に「シケタイ」「シケプリ」が存在します。つまり皆さんとあまり学力が変わらない東大生はこんなに効率良く授業を受けているのです。ですから、自分が取っていない授業でも「シケタイ」「シケプリ」が手に入りますし、ネット上などにもあります。これでクラス一丸となってレポートを乗り切るという熱い友情に包まれたのが東大生の授業です。東京大学のすべての1, 2年生には「シケタイ」「シケプリ」があります。私は革命的怒りをもってこれを粉碎しようとしています。九州大学や北海道大学も取材しましたが「シケタイ」「シケプリ」を作っているのは東京大学だけです。これが東大です。

では、取材してきたアメリカのイエール大学の話に移ります。(スライド2) イエール大学の時間割でまず皆さんにとって圧倒的に重要な話は、授業が90分ではありません。日本では70分で行っている国際基督教大学(ICU)などもありますが、ほぼすべての日本の大学の授業が90分だと思われま。東大の時間割を見れば分かるように90分で固定されているのですよ。皆さんのところもそうだと思います。ですが90分授業は長くて退屈ですよね。驚くことにイエール大学の時間割では語学は50分授業です。なぜ50分か聞いたら集中力が続かないからといわれました。当然ですよ。

	月	火	水	木	金
9:25-10:15	中国語中級	中国語中級	中国語中級	中国語中級	中国語中級
10:30-11:20	有機化学		有機化学		有機化学
11:35-12:50		ライティングセミナー		ライティングセミナー	
			13:00		
14:10-15:25		免疫学(フレッシュマンセミナー)	有機化学実験	免疫学(フレッシュマンセミナー)	
			16:30		
19:00-20:00		セクション有機化学			

アメリカの大学ですから英語の授業はありません。イエール大学の1年生は第1外国語で中国語を取ります。皆さんや東京大学では

中国語や英語は週2日だと思いますが、イエール大学やプリンストン大学、ハーバード大学では基本は月～金曜日まで毎朝です。朝は一番頭がすっきりしているので朝やります。毎朝の1限50分間は中国語、ですから月火水木金と、毎朝中国語です。中国語の授業を受ける人数は7人や10人、それに先生が3人です。先生3人は一度につかず、交代で来ます。

イエール大学ではなくプリンストン大学の例ですが、どういう語学の授業をやるか。月・水曜は普通の中国語の授業を行います。もちろん10人でやっていますから片っ端から当てられます。火・木曜は前日の授業の復習、金曜は1週間の復習、そして翌月曜は最初の授業に加えて別にテストをします。テストはペーパーテストですが、それとは別に中国語ネイティブの先生が話した発音をiPadにとり、それを聞いて自分で録音した音声ファイルを提出します。これを15週、毎週です。月～金曜までみっちり中国語の勉強をやり、土日は宿題の山、月曜は授業とテストです。これは中国語の専門学校でも厳しいと思います。十分きついのですが、これでまだ中国語の話しかしていません。ですから、日本の大学の語学教育よりすごいです。実は日本においてこれを英語で行っているのが亜細亜大学なのですけれども、誰も話題にしません。

ここでポイントなのは、東京大学の時間割を見ると学生は16科目取っています。ところが、アメリカの大学ではどこもそうでしたが、同じように埋まって見えるイエール大学の学生は1学期に4科目しか取りません。少ないですね。この学生は有機化学実験の大きなものが入っているのでこれを忘れていただくと、中国語、有機化学、ライティングセミナー、免疫学しか取っていないのです。プリンストン大学では4年間で31科目、イエール大学は4年間で36科目取れば卒業ですが、東大生は16科目取っています。日本は90分授業で16科目を取るのには、はっきりいって薄く浅く詰め込みすぎなのですよね。もうお分かりのとおり、米国は一つの授業にとっても手が込んでいるわけです。

彼は有機化学を取っていますが、有機化学は一般教養の理系科目だと思ってください。たった4科目しか取らずにどうしているかというと、有機化学の授業は月・水・金に50分あります。これは週1コマより定着します。

問題なのは、有機化学の授業を受ける学生数は割と多くて 100 人です。なぜかここに夜 7 時からセクション有機化学というなぞの科目が入ります。一体これは何でしょう。これは大人数で行う科目を黙って聞いてレポートを出すだけでは駄目だという大前提のもと、ゼミ形式の授業が入っています。つまり、有機化学の授業は 100 人や 150 人ですが、週 1 回のセクションでは大学院生のティーチングアシスタントによる 1 対 10 のディベートをしています。ディベートと座学がセットで有機化学 1 科目というわけです。日本の大学の皆さんの場合は、例えば一般教養で日本文学入門という科目を取った場合、150 人で聞いて学期末にレポートを出して終わりなのですが、これにディベートのゼミが 1 対 10 ぐらいで入り、ほかに山のような宿題が出るということです。実際問題として、私は日本のすべての大人数講義にはこのセクションを導入すべきだと思います。これをやるために有機化学をみっちりやっているとということです。

ライティングセミナーという授業は 75 分で、これも 90 分ではありません。大阪大学にも 1 年生向けのゼミがありますが、フレッシュマンセミナーですね。彼の場合は免疫学を取っていますが、これも 75 分です。大きい 3 時間半の実験は特殊なので外しますが、このようにたった 4 科目しか 1 学期に取らず 1 科目をみっちりやっているのが、取材してきたアメリカのアイビーリーグのスタイルでした。ハーバード大もイエール大学もプリンストン大学も大体こういう感じでした。

よくアメリカの大学は日本と違って資金力がある、先生の数が多などといわれますが、日本とアメリカではいろいろ違うのはよく分かります。私は日本が駄目でアメリカがいいというつもりは全くありません。しかし、パンキョー革命のためにもし参考にできる部分があれば、皆さんが参考にしてくださいと思います。どうせ無理だというわけではありません。少なくとも今までは日本国内でもっといいことをやっている大学がないかというぐらいが私の関心だったのですが、やはり世界で何が起きているかに関心を持ってほしいと思います。

彼の時間割を表にすると（スライド 3）、1 学期当たり 4 科目、5 科目しか取っていません。先ほどの有機化学は週 3 × 50 分 + セクシ

ョン週 1、免疫学セミナーは十数人のクラスで週 2 × 75 分、ライティングセミナーは十数人クラスで週 2 回 × 75 分です。日本人学生にライティングセミナーの話聞いたところ、英語で書いたレポートが進研ゼミの赤ペン先生のように真っ赤になって返されるのでとても落ち込むと話していました。しかし、これをやっておくと論文の書き方が分かるのですね。なぜ日本にそういう授業があまりないのかがとても不思議です。中国語の授業は週 5 × 50 分あります。

### イエール大学の初年次教育

#### 【1 年次前期（秋学期）】 5 科目だが週 14 時間

- 有機化学 週 3 × 50 分 + セクション週 1
- 免疫学（フレッシュマンセミナー） 週 2 × 75 分 10 数人クラス
- ライティングセミナー 週 2 × 75 分 10 数人クラス 導入ゼミ的な科目
- 中国語 週 5 × 50 分 10 数人クラス
- 有機化学実験 週 1 × 2 ~ 3 時間

#### 【1 年次後期（春学期）】

- 有機化学 週 3 × 50 分 + セクション週 1 × 50 分
- 有機化学実験 週 1 × 2 ~ 3 時間
- 中国語 週 5 × 50 分 10 数人クラス
- 細胞生物学 週 2 × 75 分 60 人授業 セクションでは 10 人（週 1 × 50 分）
- 現代ヨーロッパの政治学 60 人のレクチャー（週 2 × 75 分）と 15 ~ 20 人のセクション（週 1 × 50 分）

後期になっても同じような科目を取っています。細胞生物学は 60 人クラスの授業で週 2 × 75 分、ただし 60 人の授業でも大学院生の TA が 3 人入って授業をサポートしています。例によってセクションもあります。彼は現代ヨーロッパの政治学という科目を取っていますが、これも週 2 × 75 分の 60 人のレクチャーと 15 ~ 20 人のセクションが週 1 × 50 分です。このように授業のやり方が非常に凝っています。これはすごいです。

彼は 9 月に入学しています。1 年生の秋学期は 9 月 ~ 12 月なのですが、今話題の東京大学の秋入学は、実はハーバード大ではなくイエール大学のスケジュールに合わせています。生協には『アホ大学のバカ学生』（光文社、2012 年）という私の名著が売られています。この本で書いているのですが、東京大学はイエール大学と協定を結んで交流しています。ところが、シンガポールにイエール大学とシンガポール国立大学の合弁の大学が立ち上がり、東大が干されている状況にあります。

#### 1-2. イエール・シンガポール大学

イエール・シンガポール大学は、すべての授業が 20 人以下で全寮制、授業はすべて英語で行われます。シンガポールの公用語は英

語なので授業をすべて英語でやるのは当たり前です。本場の方のイェール大学では、9～12月が秋学期、1～5月に春学期、6～8月はすべて夏休みです。3カ月の夏休みはいいですね。学生は全寮制で、寮は男子学生7人部屋という大変むさ苦しいところに住んでいます。この寮にはディーンという事務長のような教員がいます。大学の先生と一緒に寮に住んでいるのです。ですので、授業で分からないことは先生に聞くことができます。また、マスターという寮長のような教員がいます。マスターとディーン、あとはフレッシュマンアドバイザーという1年生の担任の先生、フレッシュマンカウンセラーという4年生、これらすべてが寮に住んでいます。ですから、何か困ったことがあったときには学生6人のほかにマスター、ディーン、アドバイザーの先生、カウンセラーの4年生がいますので、実はものすごくサポートされています。授業の空き時間は寮に帰ればいいのです。

学生寮がなく全寮制ではない名門大学は世界で日本ぐらいです。大体皆さんおかしいですよ。授業が終わったら混雑する電車に乗って神戸や大阪や京都に帰っていくのでしょうか。その時間がもったいないということです。東大生の場合、50%が自宅通学で平均通学時間は1時間です。天下の東大生の24時間のうち2時間は電車に乗っているという、どれだけの鉄道マニアかと私がツイッターで書いたら、東大生が電車の中で勉強しているからいいと書いてきました。だけど電車の中で勉強していたら、学生6人やマスターやディーン、フレッシュマンアドバイザーと出会えないではないですか。

結局、大学の勉強は授業で知識を得ようと思っただけいけないのですよ。プライベートでどれだけ学んだかなのです。世界で日本だけ寮がないため、このプライベートで勉強する機会が日本人学生には全然ありません。ですから、私としては寮を作ることを常にこだわっているのですが、今すぐ大阪大学に寮ができるわけでもありませんので、皆さんでできることを考えていこうという私の突拍子もない話です。

### 1-3. マサチューセッツ工科大学

誰でも知っているマサチューセッツ工科大学の事例を出そうと思います。皆さんも興味

があるところでしょう。マサチューセッツ工科大学ではKくんというアメリカ人に取材しました。私が行った日は3月でしたが大変寒く雪が降っていました。しかし、キャンパス内を裸足で歩いている人がいました。彼いわく、マサチューセッツ工科大学は変態の集まりだから裸足で歩いている人は珍しくも何ともない、僕は裸で歩いている人を見たと話していました。はっきりいってクレイジーな大学なのです。ジョブズがいったとおり、クレイジーは基本的にほめ言葉です。皆さんの学校も理系が多いのでMITがどういう授業をやっているかをご説明しようと思います(スライド4)。

**MIT K君**

**【秋学期】**

- 生物学 レクチャーが週3+TAによるレジテーションが週2 (つまり週5)
- 物理学 レクチャーが週2で2時間、TAによるレジテーションが週1で1時間
- 数学 週5×1時間、うちレクチャーが週3で、TAによるレジテーションが週2
- 英語のライティング 週1で3時間。初年次教育科目のようなものらしい。ディスカッションなどもある。正式には「ランゲージ&テクノロジー」という科目。人類学なども学ぶ。それは深い教育的意図があるそうだが、私の理解力不足で詳細は不明。

**【春学期】**

- 化学 クラスは週3で150人+TAによるレジテーションが週2、TAの授業は12~20人で、質問やディスカッションをする。
- 数学 週5。秋学期と同じ。
- 経済学 週3。レクチャーが週2でTAのレジテーションが週1
- 物理学 週3。レクチャーが週2 (1コマ2時間) で、TAのレジテーションが週1×1時間。

新入生の秋学期には、生物学、物理学、数学、英語のライティングというたった4科目です。生物学では講義が週3、ティーチングアシスタントによるレジテーション( recitation )という少人数のディベートが週2あるので生物学で週5です。物理学は2時間通しで行われるレクチャーが週2、TAによるレジテーションが週1×1時間で週3コマ、数学は週5×1時間です。ということで、月～金曜まで数学と生物学、物理学をしっかりとやっているという恐るべき学校でした。コロンビア大学などでは代わりにプラトンなどをしっかりとやっています。

MITも大学院生のTAを使った少人数のレジテーションというディベート形式のゼミを必ずやります。大人数の講義もありますが、それだけで終わらせないということですね。1年生の入ったばかりの学生に英語のライティングをやっているのがちょっと面白いですね。週1コマしかない代わりに3時間通しで行われます。これも人数がとても少なくても十数人と聞いています。正式には「language and technology」という科目です。

春学期になると化学，数学，経済学，物理学を取っています。これもそれぞれがレクチャーとレシテーションが必ずセットになっています。日本の大学においてたくさん問題があると思いますが，すぐにできる一番重要なこととして，黙って聞いている授業に少人数のゼミを組み合わせることを緊急にやるべきではないのか，それは先生たちにとって負担が重いので大学院生の TA，日本の場合は学部生を使ってもいいと思っています。

MITには変な文化があるそうで，キャンパス内で適度ないたずらをして許されるそうです。ある学生は校舎の屋根にパトカーを置きました。本当なのですよ。検索して見ていただきたいのですが，大きなドームの上にパトカーが乗っています。なぜ乗せたか誰にも分からないのですが，ある日の朝，学校に来てみると乗っているわけです。この学校が面白いのはそれを叱るのではなく写真を撮って壁に飾ってあるのですよ。その後，学長あてにパトカーの下ろし方という手紙がきたらしいです。そういう変なことをやっていいという文化が MITにはあるそうです。ただし，この学校は勉強がとてつきつく，勉強がきついため自殺者が出ると聞きました。ただ，先ほどの裸足で歩く人や変ないたずらをして許されます。パトカーの次の年には屋根から生きた牛がつるされていたそうですね。これも生きた牛をつるした写真が載っています。犬のハーネスのようなものを巻いた牛がつるされたそうですが，これも牛の下ろし方が書いてあったようです。変なことをしてもいい不思議な大学で大変面白かったです。

アメリカの大学で取材してきたのはプリンストン，イエール，ブラウン，MIT，ハーバードでしたが，今話したような感じで授業を行っています。今までハーバードの先生がすごいというようなテレビ番組が多く日本人を勘違いさせたのだと思うことがあります。皆さんの学校にもスタンフォードの先生が来ていたと思うのですが，授業を改善するというのはマイケル・サンデルのようなすごい教授が面白い授業をするものだと多くの日本人が思い込んでいるのですよ。明らかにそれはおかしいだろうというのが私の主張です。今ご説明したとおり，入ってきた新入生にきつい環境でたくさん勉強させること，すごい先生が面白いレクチャーをやること，大学院生

とのセクションが 1セットであることが全く忘れられています。

日本で皆さんを教えておられる多くの先生方の中にはアメリカ等で修士，博士を取ってこられた大変優秀な先生がたくさんいらっしゃいます。それは素晴らしく，いいことです。しかし，アメリカで学部教育を受けた人はあまりいないと思うのですよ。大抵は日本で東京大学や大阪大学などを出て，きみは優秀だからアメリカでもまれてこいと勧められ，あちらでドクターを取ってきたから天下の Ph.D がついているのです。しかし，その先生方はアメリカの学部教育を受けていませんよね。私は学部教育の面白さをぜひ学部生である皆さんに知ってほしかったのです。今でもハーバードというと，すぐにハーバードビジネススクールのすごいビジネスみたいな本が出ていますが，本場ハーバードでは，実はビジネススクールというのは金に目がくらんだやつらというさげすみの声もあるのです。なぜなら哲学をやっている人などもいるわけですよ。

#### 1-4. ヨーク大学

アメリカの大学を見学した私は，意気揚々とカナダへ行きました。カナダに留学している日本人からアメリカに行くならカナダに来てくださいと言われたから行ったのですが，最初の感想は「行きたくない」でした。というのは，アメリカから航空券を買って帰ってくればいいのになぜカナダまでと思ったわけですが，結論は行って正解でした。なぜなら，カナダの大学はアメリカの大学と全然違いました。アメリカの大学は 90 分授業ではない，90 分授業はやめた方がいい，50 分だみたいな話を皆さんにしましたが，カナダでは授業がすべて 3 時間でした。全然違いました。

カナダにあるヨーク大学はかなりの名門です。このカナダの彼が 4 科目しか取っていないのは先ほどのアメリカの学生と同じですね（スライド 5）。ところが，このうち 3 科目がそれぞれ週 1 × 3 時間，1 科目は週 2 × 90 分というもので，全然アメリカと違ったのです。私はこれを聞いた瞬間にアメリカが勝ったと思いましたが，彼が受けている教育は 20 人，20 人，30 人，15 人でした。3 時間といっても黙って 3 時間聞いているのではなく，ディベートやワークショップなどのアクティブラー

ニングのとてもしんどい授業をみっちりやっていたのです。これは経営学部なので、実際に企業の人間に投資の話提案するなどの授業があるため、授業以外の時間がとてもきついですよ。週1コマしかない代わりに空いた時間は学生同士が集まって宿題や議論をやらなくてはならない時間がたくさんあり、とてもきついです。ただし彼の場合は1~4月に2科目しか取らなかったため週3でインターンはやっていました。

### カナダ ヨーク大学シュエリックスクールオブビジネスのS君

9月~12月 秋セメスター

- ・4000 スポーツマーケティング 週1×3H 20人
- ・4000 ソーシャルアントレプレナーシップ 週1×3H 20人
- ・3000 カナダのビジネス事情(留学生向け) 週1×3H 30人
- ・3000 国際経済学 週2×90分 15人

月月火水木

1月~4月 冬セメスター

- ・4000 ブランドマネジメント 週1×3H 20人
  - ・4000 ソーシャルメディアマーケティング 週1×3H 20人
- 週3でインターン



ヨーク大学のフードコート

写真を撮ってきました(スライド6)。このカナダの大学は5万人もいるのでキャンパス内に大きなショッピングセンターがあるのです。さらに驚いたのは、この後トロント大学に行ったのですが、図書館の蔵書が1500万冊で大阪大学の総合図書館の7倍ありました。はっきりいって大阪大学の総合図書館は日本で一番立派だと思います。東京大学は本があちこちに分散されています。私は大阪大学の総合図書館は素晴らしいと思っていますが、その7倍の大きな図書館です。国体代表とワールドカップぐらいの差があると思いま

すが、大阪大学は十分いいところだと思います。1500万冊もあるために図書館の1階が巨大な学食、フードコートでした(写真6)。

ヨーク大学にはグループプロジェクトの授業があり、宿題がとてもきついためキャンパスのあちこちに個室の勉強部屋みたいところがたくさんあります(スライド7)。こういう空いた部屋でグループ学習みたいなのを鬼のようにやらされる、やらされるというより勝手にやっています。この学校では1~2年生の授業がすべて40人以下、3~4年生になるとすべての授業が20人以下です。ものすごく丁寧にやっていますが、アメリカのハーバードやイエールは学費が1年400万もかかる私立大学だからできるのですが、カナダは驚いたことに州立大学です。なぜそこまでできるのかは、申し訳ありませんが調べていません。



カナダの場合、大学院の経営のMBAに近いことを基本的に学部教育でやってしまうことが分かりました。ご存じのとおり、アメリカでは4年間はリベラルアーツ(教養教育)で大学院でより専門をしっかりやろうという考えですが、私が意外だと思ったのはカナダでは学部教育でしっかりやろうとしています。これは実はヨーロッパ型です。日本は戦後、アメリカの高等教育の制度が入ったことになっているにもかかわらず、皆さんは入試の段階で学部を決めなければいけません。それはなぜか。実は戦前の日本の大学はどちらかというドイツなどのヨーロッパ型でした。驚いたことにイギリスは大学が3年しかないのですよ。オーストラリアもそうです。なぜかという、ヨーロッパの人たちは皆さんが1~2年で受けているようなリベラルア

ーツが高校までに十分身につけているから大学では専門しかやらないというのがヨーロッパの大学なのです。どうもカナダはその節があります。ですが、アメリカは違います。

## 2.日本の大学はどう変わるべきか

そして、問題は日本です。どうも日本はもともとそうだったようです。大学は専門だけをやればいいではないか、なぜなら、戦前は教養教育を旧制高等学校などでやっていました。ですから、大学は専門をきちんとやるどころであり、今でも日本の大学は奥底ではそう思っていると私は思っているのですよ。そうでなければ入学の時点で医学部や経済学部などと決めないではないですか。ですから、日本の大学は実はアメリカ型ではなくヨーロッパ型なのです。学校側はこれを認めません。そこにアメリカからリベラルアーツが入ってきてしまったばかりに戦後に教養部というよく分からないものができ、それが名と姿を変えて皆さんの立場になっているわけです。

これは私から見ると、ヨーロッパ型の教育とアメリカ型の教育のいいとこ取りではなく悪いところ取りです。なぜか日本はアメリカの制度を導入するときはわざわざ劣化させて導入するという訳の分からない癖があり、その頂点がロースクールです。リベラルアーツもそうなのですよ。はっきり言いますが、先ほどのイエール大学の授業をそのまま日本に導入してもいいのにわざわざ劣化させて導入するという訳の分からないことをしています。結果的に、大学側は世界最高の教育を皆さんに提供していることになっていますが、皆さんはそうでもない、改善の余地があるのではないかというのは、まさにこういうところなのではないかなと思います。

### 2-1.教員1人あたりの学生数

皆さんに無関係な話かもしれませんが、日本のほとんどの大学は私立大学です。ですから、皆さんも友達が私立大学に行っている人も多いと思います。関関同立や近畿大学など名前だけ聞けば大阪大学とそんなに違わないように見えるのですが、実はかわいそうなことに私立大学の学生は皆さんとは違ってとても劣悪な教育環境で勉強しているというのがこの数字です(スライド8)。それは教員1人あたりの学生数です。

### 教員1人あたり学生数と平均クラス的人数が、大学の質

<b>青山学院大学</b> 文学部 46人 経済学部 57人 法学部 55人 経営学部 55人	東京大学 9.2人 北海道大学 9.5人 新潟大学 9.7人 東京工業大学 9.8人
<b>法政大学</b> 法学部 55.0人 文学部 40.4人 経済学部 61.0人 社会学部 48.4人 経営学部 57.3人	プリンストン大学 5人 シカゴ大学 6人 ハーバード大学 8人 ダートマス大学 8人 ウェルズリーカレッジ 8人

大阪大学がなくて申し訳ないのですが、東京大学や新潟大学あたりをご覧ください。こちらは計算方法によって人数が変わるのですが、概ね国立大学は大学の先生がすごくたくさんいることによって質の高い教育が受けられます。アメリカの名門校と比べても数字の上では遜色はありません。ところが、ここに青山学院大学と法政大学を出していますけれども、関西大学などもこういう感じなのですよ。関西大学の法学部などでは60人、皆さんの6分の1の質の教育を受けています。これについて、私は譲れません。本当にそうなのですよ。ですから、皆さんの多くと一緒に歩いていく日本の大学生諸君は非常に質の低い教育を受けていることに私は気づきました。

つまり、大きな教室で大人数授業をやるのが大学の授業なのだと思います。ところが、国立大学にくると分かるわけですね。テレビドラマなどで階段教室などを映すものですから、オープンキャンパスなどで階段教室を見て素敵と思うのですが、素敵なのではありません。イギリスのオックスフォードやケンブリッジにも行きましたが、あちらでの授業の基本は1対4などです。教授とみっちり丁寧にやるのですが、本来の大学の授業はそうなのです。大衆が大学に行くためにやむを得ず大人数でやっているだけです。そして、先ほどのアメリカの事例で分かりますね。大人数講義をやったら同じ授業をゼミでやってカバーする、同じ内容をやるわけです。

また、アメリカの場合はティーチングアシスタントをやった大学生でないと教授になれません。つまり、研究業績が立派で論文を書いただけでなく教えることがプロでないと大



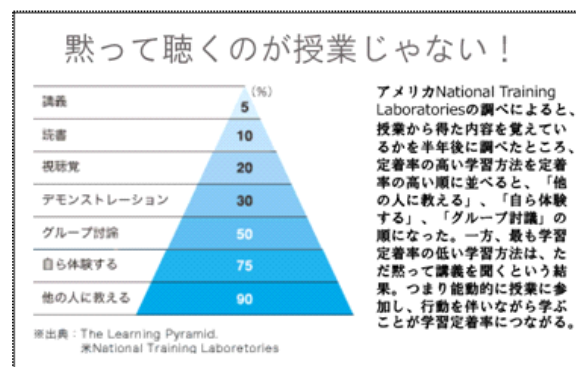
学の先生になれないのです。驚いたことに中国でも同じです。日本はどうしたのだろうかという感じです。中国では教員と職員の間の補導員と呼ばれる人がいます。補導員は勉強を教えるわけではありませんがクラス担任です。担任の先生がいて、学生のキャンパスライフの面倒をみているということです。先ほどのイエール大学の寮の人みたいな担任の先生がいるわけです。面白いのは、補導員を経験しないと大学教授になれません。イエール大学ならば TA をやらないと教授にさせないのと同じです。中国の制度では、補導員になってクラスを持って学生生活の面倒を見た後、教員を目指すか幹部職員になるかが選べます。これはいいですね。今日本でも教員と職員の間が必要なのではないかという議論が細々と新潟大学の絹川先生あたりが言っていますが、誰も聞かないという状況です。私は必要だと思います。

## 2-2. 能動的学びの重要性

これはアメリカの調査結果です（スライド 9）。授業から得た内容を覚えているかを半年後に調べたところ、講義で聞いたことを半年後も覚えているのは 5% でした。皆さんが聞いた講義は半年後に消えてなくなることが分かります。読書は 10% ですので、講義より読書をしている方がましということが分かります。視聴覚は 20%、本を読むよりテレビを見る方がましということが分かります。デモンストレーションは 30% ですから、私も本日は講義ではなくデモンストレーションだと思ってやっていますので 6 倍の価値があります。この後に皆さんはグループ討論をなさいますけれども、アメリカの調査によるとグループ討論は黙って授業を聞いているより 10 倍定着するわけです。素晴らしいですね。というわけで、熱くグループ討論していただく。授業に積極的に参加しないと点数がつきません。手を挙げないと点数がつきませんので、手を挙げて意見を言わないのはいかながなものでしょうか。そういう感じで覚悟していただきたいと思います。

グループ討論よりもっと価値があるのが自ら体験することです。企業に行くことやボランティアで農村に行くことが実は素晴らしいということです。最後に、ほかの人に教える。だから TA なのです。大学院生がほかの学部

生に教えることです。例えば、皆さんが 2 年生だとして 1 年生に自分が受けてきた授業を教えるとしたらとても大変でしょう。準備をしなくてははいけないし、1 年生に分かりやすく教えなければいけません。それをやることによって講義を聞くよりも 5% から 90% へ自分の定着率が上がります。つまり、人に教えることは自分が学ぶことなのです。おかげさまで、本日私は大変学ばせていただいています。そういうわけで、ただ黙って講義を聞くというのはものすごく駄目だと分かっているにもかかわらず、なかなか改善されません。



## 2-3. 日本の大学の問題点

それはなぜか。本来、大学の学びは能動的であるはずにもかかわらず、今までの日本の大学は結果的に受動的な人間を作ってきました。それはなぜか。会社がそれでよかったからです。企業は黙って言うことを聞くかわいい後輩が欲しいのであって、上司に対して自分はどういうことがしたいという人間は今までは要らなかったのですよ。でも、皆さんがお気づきのとおり、日本の経済がへろへろになってきて、若い人に何とかしてもらわないといけないというので大学教育も変わらなくてははいけません。

もう一つ私が非常に問題だと思っているのは、属人的な自己責任社会です。時々学食で 1 人で食事をしている人を見ると、あいつは友達がいらないのではないかなどということがあられるかもしれませんが、先ほどのイエール大学の例などのように個人のメンタリティとは無関係にすべての人間にサポートが行き届いています。それはメンタルがタフだろうが弱かろうが関係ありません。ところが、日本の場合は寮がなく、クラスもしっかりした体制がないために学問の友人ができません。私がそ

うだったのですが，大学に入ったらサークルでスポーツなどの遊びの友達はできました。しかし，勉強の友達ができないのですよ。大阪大学はその点よくなさっていると思います。授業の空き時間に寮に帰れませんから，結果的に自分の居場所は自分で作るしかありません。

こういうことをやっていると生きるスキルが身につきます。これは少し抽象的な話になっていますが，先ほどご紹介したアメリカやカナダの大学の授業を見ていると皆さんが日本の大学でも参考になる，改善すべき点がたくさんあることを薄々感じていただけるのではないかと思います。

#### 2.4.大学で身につけるべき能力

東京大学教育学研究科の本田由紀先生が提唱したものなのですが，内定獲得に関係ある八つのネタ作りです（スライド 10）。本来の授業の話から脱線していますが許してください。これから就職するにあたってほとんどの学生が就職の面接でアルバイトとサークルの経験ばかりを話すわけですね。「アルバイトはコンビニでしていました」，大阪大学なら「塾講師をやっていました」「家庭教師をやっていました」などです。東大生も塾講師や家庭教師が多いです。時給は大体 3000 円ですか。いいですね。コンビニの何倍もらえるのでしょうか。



就職活動の面接でサークルの話をして企業の人からうんざりだと言われたのは，なぜかテニス部の副部長ばかりだということです。「学生時代は何を頑張りましたか」「テニス部の副部長でした」，またきたか。なぜ人は

みなテニス部の副部長になるのか。これが笑えないのは，私は高校の時に副生徒会長でした。分かりますか。生徒会長はやりたくないですよ。先に書記などになってしまう生徒会長にならなくていいのです。そういうわけで，日本人の出世したくない気持ちがまさにテニス部の副部長という言葉に凝縮されています。それは企業も飽きているので，バイトとサークル以外にネタを作っておくということです。

これはバカバカしいと思うかもしれませんが，東京大学教育学研究科の先生が真剣に作ったものなので私は結構きちんとしていると思うのですよ。バイトとサークル以外に大学時代に頑張ったことを作っておくということで，「英語・留学」「企業でのインターンシップ」「ボランティア・NPO」「資格・予備校」「ゼミ・演習」です。要はゼミや授業できちんと勉強をしようということです。ですので，本日皆さんがやっているこういう活動もとてもいいと思います。

趣味の活動団体はマニアックだと思えますが，何か好きな趣味がある場合にもし可能なら学外の人との交流や社会に出てみることを何か一つやってもいいのかと思います。ただ，皆さんの周りにアフリカやカンボジアの貧しい子どもを救うために頑張っているという人はいませんか。私がそういう人を見ていて不安になるのは，そういう人の中には大学で勉強していない人がいませんか。マサチューセッツ工科大学でハイチ地震の被災者を救う活動をしていました。しかし，これは学生が勝手にボランティアでやっているのではなく大学のカリキュラムに組み込まれているプロジェクト学習になっているので，教授とお金がついてきてみんなでハイチに行きます。つまり，これは学問の一部なのです。ところが，日本の場合はやる気のある学生が世界で何かをしたいとき，ほとんどの大学はサポート体制が一切ありません。人，もの，金が一切ありません。イエール大学の学生は 6～8 月まで 3 カ月ある夏休みで北京に留学しているのですが，これは大学からポケットマネーが 150 万出て，向こうで世界中の学生と夏休みに一緒に勉強しています。

ですから，カンボジアに学校を作るみたいなものも大学の学問と結びついていて，きちんと教授が手伝うわけです。ところが，日本

はこれが充実していないばかりに自分で勝手にやっけてしまいます。カンボジアやアフリカで学校を作っている人には立派な人もいますが、私から見ると大学の授業が駄目だからほかに楽しみを探しているように見えます。もちろん全員とは言いません。

### 3.大学を変える際の課題

今大きくお話ししたのは、最初にアメリカの時間割の話、それを踏まえて日本の状況を話しました。最後の三つ目は恐らく今までパンキョー革命で皆さんがあまり触れてこなかった部分だと思っています。それは教員の待遇の改善です。私は大学の先生ではありません。自分が受益者として面白い授業をやっけてほしいというのが私の出発点でした。ところが、日本の大学の先生はアメリカなどと比べてさぼっているのかと思っていたのですが、大学の先生方を取材してみるとそうではありませんでした。

#### 3-1.重すぎる教員の負担

実は今、日本の大学の先生は目一杯です。皆さんがご覧になってどう思われるか分かりませんが、日本の大学の先生は担当するコマが多すぎるのですよ。例えば、大阪大学ですと4コマぐらいと聞いていますが私立大学ではルールとして6コマを教えています。ところが、10コマや12コマという小学校の先生並みの環境で教えている日本の名門私立大学が数多くあります。結局、日本の大学は授業を改善しようにも教員の負担が重すぎます。

先週、ある首都圏の私立大学でFD講演会の講師に招かれた私は教員の負担を減らすFDというテーマを出したら大受けしました。冒頭に申し上げたのですよ。FDといういろいろな教育学者がやってきたり、ほかの大学の成功事例を話す先生が大きな顔でやってきて、うちの学校はこれほどFDを頑張っているよと話して去っていきます。しかし、皆さんはそれを聞くとうんざりでしょう。こちらは目一杯やっているというのが先生方の本音ですよ。

基本的にこのパンキョー革命も気を付けないと、先生方の負担は今でも十分きついのにもっとしんどい思いをさせるのではないかというのが私の最後の問題意識です。ただし、最初の問題意識では授業を改善しろと話して

いるので矛盾しているのですが、これは仕方ありません。

#### 3-2.アメリカの有名大学の入学試験

アメリカで聞いた話では、日本の大学の大きな問題は入試と教員人事にあるといわれます。入試に関しては当然、天下のセンター試験で大変高い点を取られて突破された優秀な大阪大学の皆さんには申し上げにくいのですが、これが本当に一番優秀な人間を選ぶシステムなのかどうか。少しそれはどうかと疑うことです。皆さんは大学生ですから分かるとおり、既存の学問はとりあえず疑いますね。私はみんながほめる大学を疑う癖があるので、秋田の国際教養大学を批判することもあります。みんながほめているところは疑います。今のペーパー試験で優秀な学生を取るシステムが本当に一番いいシステムかどうかを疑問に感じていたら、驚いたことに京都大学が入試改革をやるというのですよ。私立大学みたいなAO入試をやっけて、部活動などやる気みたいなもので判断する学生を1割取るといいますね。それもどうかとは少し思いますね。

先ほどのイェールやハーバードがどういう入試をやっているかという、いわゆるアメリカ版のセンター試験のSATがあり、これは満点近く取れて当たり前です。その点は皆さんと一緒にです。これに加えてエッセイがあって志望動機を書かなくてははいけません。私はなぜイェールに入りたいのか。実はこれが一番しんどかったと日本人学生は話していました。僕はなぜ入りたいのだろう。有名大学だから、将来何をやりたいから、このエッセイを書くことが極めてしんどいのです。また、高校時代のリーダーシップ経験を書かなくてはいけないそうですから点数だけ取れている人間は入れませんね。どちらかという企業面接や採用試験に近い形です。高校時代のリーダーシップ経験や大学の志望動機が厳しく問われるような入学試験をやっています。もちろんこれが正解で、日本は間違えているというつもりはありません。

#### 3-3.入試制度はこれでいいのか

なぜアメリカはそれをやっているのかというと、あくまでも私の意見ということで皆さんの意見と違って許してほしいのですが、

どうもハーバード大学あたりはメンタルがタフなリーダーを取ろうとしているようです。東日本大震災のときに私が分かったのは東大を出た人たちのメンタルが豆腐であるということでした。東京電力の社長は原発が爆発したらショックで倒れて入院しましたね。オバマ大統領だったら何回死んでいるのかという話です。リーダーはピンチになったときに仕事をやる人なのです。普段ふんぞり返っている偉い社長や市長ではなくて、まずいことが起きたときに何かやるという強いメンタルを持っているのがリーダーであり、アメリカのトップ校がそういうメンタルのタフな人間を取るために志望動機を書かせたり、なぜこの学校に入りたいかを徹底して問うというのはそういうことなのです。京都大学は薄々そういう人を取ろうと思いはじめています。

ですから、冒頭の東京大学や大阪大学は点数が高い人を取るやり方が本当にエリートなのか。入試制度はこれでいいのか。話を大きくしすぎているかもしれませんが、実際に京都大学や東京大学が高校生を入れる部分に着手しようとした今、入試はどうするかを皆さんで議論して、もしかしたらそういうことを考えて提言してもいい時代がとうとうきたのかなと思います。入試制度は変えなくていいのか。皆さんは受かってしまった人なので正直なところ変えたくないと思うのですよ。ですが、本当にそれでいいのか。

ただ、いくらアメリカだからといってメンタルがタフなリーダーばかりが入っているのかという話ですよ。そういうわけではないですよ。アメリカ人にもシャイな人はいます。そういう人はハーバードや MIT のような勉強や競争ばかりのところでは居心地が悪いわけですね。ではどうするか。アメリカでもメンタルがタフではない人の場合には 2000 人規模の小さなリベラルアーツカレッジに行きます。学力は高いけれどもそういう競争社会は嫌だというタイプは小さなリベラルアーツカレッジに行って先生とみっちり学ぶような家庭的な雰囲気のある大学 4 年間で鍛えられ、大学院からハーバードという伏線があります。

ところが、大阪大学のような大きな学校ではなく小さいところでこつこつ学んでから大阪大学の大学院に行こうというとき、関西に小さくて偏差値が高い大学がないのですよ。ですから、本当にプール学院ぐらいが偏差値

60 ぐらいだといいますが 40 ぐらいなのです。首都圏ならご存じのとおり国際基督教大学がありますから、私は関西に小さくていい大学が欲しいと思います。入試のときに京大・阪大・神戸大に入らないと大阪、関西はもうおしまいというのではなく、何かほかの手があるのではないのでしょうか。

ただし、教員 1 人当たりの学生数を見ると私立大学は悲惨です。みなさんには近くの私立大学に目を向けるよりも、先ほどご覧いただいたような世界のトップたちと戦ってほしいのですよ。皆さんは自覚がないかもしれませんが、結果的にワールドカップでサッカーをやる人になってしまったわけです。実際になっているのですよ。皆さんの先生方は論文を書いて世界と競争しているわけですから、ここは世界と戦っている学校なのです。世界と競争していない大学もありますが、ここは世界と競争している大学なのだから、皆さんには教養教育でも世界のナンバーワンと競い合ってほしいわけです。東京大学が真剣にやらない以上、もう大阪大学に期待するしかありません。京都大学もあまり真剣にやっています。

### 3.4. 世界の大学に目を向ける

本日なぜこちらに来ているかということ、私が日本中の大学をすべて行った中で最高にいい教養教育をやっているのが大阪大学だと思うからです。国際教養大学は一生懸命やっていますが研究をほったらかしていますから科研費が大学全体で 895 万円、教員の評価の 6 割を教育で評価します。研究ではないのです。金沢工業大学もおおむね先生を教育で評価しています。それはそれでいいのですけれども、こちらは違うではないですか。世界最高の研究をやっているプリンストンやハーバードやスタンフォードと競い合うのでしょうか。ならば学部教育の質も厳しく競い合うべきだと思います。先ほどのイエール大学の事例などには間違えた情報が入っているかもしれませんし、これを見て私が正しいとか暗記しろといっているではありません。皆さんには世界最高の教育をどこがどうやっているのかを貪欲につかみとってほしいのですね。

その上で、では大阪大学のパンキョーはどうしていけばいいか。正直なところ近隣大学よりも、フランスで一番すごい学校はどんな

のか、イギリスはどうか。幸い皆さんの周囲には海外に行かれた先生もいらっしゃるし、皆さんにも留学した友達がいるでしょう。例えば、留学した子にどういう時間割だったかを聞いてもいいと思うのですよ。どういう授業だったか、寮生活はどうだったか。ぜひワールドカップで戦っていただきたいというのが私のお願いです。今の皆さんはそういう環境にいて、しかも大阪大学はそれだけのリソースをお持ちです。大変素晴らしいです。

あと 10 分の間に皆さんが質問を書いてくれることを私は祈っております。みうらじゅんという漫画家をご存じの方はいらっしゃいますか。少しいらっしゃいますね。先生に多いですね。ありがとうございます。彼は関西の人ですよ。彼がこういうところで講演しているのを聞きに行ったことがあるのですが、講演が終わったあとの質問コーナーが大嫌いと話していました。なぜなら日本人は誰も手を挙げないではないですか。だから最初に手を挙げる人を愛している、あいつは仲間だ、最初に手を挙げてくれて助かったという気持ちになると話していたので私は最初に手を挙げました。みうらじゅんと心の友になりました。その講演は東京大学でやっていました。

恐らく今まで皆さんは高校などで手を挙げて発言する人は恥ずかしい、いじめられるという空気の中にずっといたはずなのです。今までの日本の会社もそうだったのです。しかし、世界中の人と学問やビジネスで競い合うときに恥ずかしいから手は挙げないといっていたら臍落とされる環境にいることに皆さんは薄々気がついてはいるはずですよ。先生方も論文は書いたけれども自信がないから発表するのはやめようといったら、当たり前ですがほかの研究者に先を越されるわけです。あまりあおってもつらいのですが、皆さんは世界と戦えるエキサイティングな環境にいる、ここはそういう学校なのです。幸いなことに皆さんはワールドカップでサッカーをしていいというチケットを手に入れてしまったのです。

今回のアメリカ取材のときに私はツイッターで「卒業旅行で私とアメリカに行きたい大学生募集」とツイッターでつぶやいたのですが、何と 2 人が来ました。これは驚きですよ。プリンストン大学に現地集合といったら早稲

田の 4 年生と東北大学の 4 年生が本当に来ましたからね。ツイッターなどで顔は知っている人だったのですが大したものですよ。そのうち 1 人はニューヨークの空港でいきなりぼったくりタクシーに 500 ドル取られました。タクシー代が 500 ドルとはしゃれになっていません。「円安でよかったね」と言ってもなぐさめにもなりません。彼らと一緒にハーバード大に行ったときに私は今のような話をして、きみたちはワールドカップの選手、きみたちがサッカーの試合で戦っているのを応援したりするのが私の仕事、私はジャーナリストなので報道する側です。皆さんにはしっかり試合をしてもらって、私はそれを応援しています。

今の学生のうちに何かすごいことをしなくてもいいのです。カンボジアに学校を作って映画になるなど今すぐやらなくていいのです。皆さんが本当に力を発揮するのは 30 代、40 代で、ここにおられる若手の先生ぐらいのときが一番皆さんの脂が乗り切ったおいしいときなのです。そのときのための力を蓄えるのが今のこの時期なのであまり慌てなくていいです。皆さんの本番は 2030 年ぐらいでいいでしょう。サッカーなら体が若い今がピークなのですけれども、学問の場合はもう少し先なのです。皆さんの多くは大学院まで行かれるでしょう。そのための基礎体力を付ける、甲子園でいうならむしろ小学校や中学校の野球が好きな時期が今の皆さんだと私は思っています。

このときに学問の体力を付けるというところでパンキョーをどうやっていけばいいのか。そのためには世界の最高にいい教育の事例を知る。そして教員の負担は重くならないことがポイントなのです。イエール大学で私がすごく驚いたのが、語学は別として、先生は 1 学期に 1 科目しか持ちません。その代わり週 2 日か 3 日は授業があります。それは先生のモチベーションが違いますよ。ですから、FD というのは何か新しい工夫をして先生の負担を増やすというより、単に先生の負担を減らすことを考えていけば、先生による授業の質は明らかに上がっていきます。ただし、それだけではいけないので難しいのです。1 科目しか持たなかったら先生が暇ではないかとなるでしょう。その代わり、大学側はノーベル賞を取るような研究をやれと言っ

ているわけです。それだけの時間とお金は与えているということですね。話を聞くと、大阪大学も私立大学に比べると先生のコマ数が少ないわけですが、それは先生方のご研究が世界に冠たるものであると私は信じています。

### 3-5.北九州市立大学の改革

本日話しきれなかったのですが、実は私が注目しているのは北九州市立大学という九州の学校です。学生の授業を改善するためにこの学校が何をやったかという、何と教員の人事システムの改革です。もう日本の大学はここまでやらないと駄目だと私は思っています。先日、ある東京大学の先生が教授会の自治は憲法で保障されていると堂々と私にツイートしてきたのですが、どうぞとしか言いようがないですね。確かにそうなのですけれども、その名のもとにあなたはどれだけさぼってきたのですかと書いたら荒れてしまうので書きませんでした。私もツイッターには敵が多いので気を付けないといけません。ちなみに、フォロワーは1万人いますので、何でも宣伝しますから何でもつぶやいてください。1万人は結構すごいですよ。サンデー毎日6万部ですからね。

本日、大阪大学で話すのは危険なのですが、北九州市立大学は教員の人事権を教授会から奪いました。これをやると当然教授会が面白くないので、代わりに学長や理事長、外部の審議会の独断で教授会人事に介入するようなことはしないというバランスを取り、また、多くの大学で虐げられている中堅、若手教員をできるだけ審議会に加えて発言の機会を与え、若い先生に活躍のチャンスを与えています。今うまくいっていない多くの大学は変わりたくないおじいさんたちが牛耳っていて、若い先生たちが発言できないというような学校が関西でも東京でも多くありますので、若い先生を取り上げるということですね。いろいろな手を打っていただいぶこちらは改革をしました。

※本講演録は、『大阪大学高等教育研究』第1号(2013)から編集委員会の許可を得て転載しています。

### 3-6.ビル・ゲイツのメッセージ

ジョブズの話は高校生向けにやっていますが、皆さんは十分できているので話しても仕方がないかなと思います。ジョブズが昨年亡くなり、ジョブズのせいでビル・ゲイツが悪役のようになっていませんか。ですが、はっきり言わせてください。日本人はビル・ゲイツの方が合っています。ジョブズは日本人からすると信長や龍馬のようなヒーローみたいですが、彼の本を読んだら分かるとおりに敵も多いのですよ。こういう人が同僚や上司だったら間違いなくこれほど嫌な人はいないでしょう。でも、素晴らしい人です。

ビル・ゲイツがいいことを話しているので、最後にこの話で締めたいと思います。ビル・ゲイツが2000年に立教大学の名誉博士号をもらうために立教大学にやってきました。そのときにある学生が「あなたが成功するために役に立ったことは何ですか」と聞いたら、ビル・ゲイツが三つあると答えました。一つは小さいころから本をたくさん読んだ、二つ目は数学をやったこと、三つ目はコンピュータープログラムを勉強したことだそうです。ですから、皆さんの場合も本をたくさん読むことと数学をやること、三つ目は皆さんそれぞれの学部学科の専門でいいです。ジョブズとビル・ゲイツから分かることは、時間をかけず、努力せずには力つきません。これは皆さんがよく分かっていることだと思います。

本日私が申し上げたかった話の重要性に比べると最後はおまけのようですが、最終的に私が申し上げたかったことはたった三つです。最初のアメリカの時間割、二つ目は日本の大学は今どうなっているか、最後に先生の負担の問題、この三つが私からのメッセージです。これを踏まえて、この後皆さんからご質問をいただいたり、グループディスカッションで大いに盛り上げていただければと思います。ありがとうございました(拍手)。

### (3)「キャンパスライフデザイン (CLD) ～新入生ガイダンス～」実施報告

#### ■運営メンバー

統括・責任者：綿谷 亮 (基礎工学研究科・博士前期課程1年次)

リーダー：末吉 紘治 (経済学部・2年次)

主要メンバー：青木孝広 (人 2)、大杉明日香 (法 2)、長井彩 (外 2)、松延徹人 (基 2)、水谷亜香里 (法 2)

その他、10名を超える当日スタッフ (2年次中心) の方々にご協力いただきました。

#### ■開催日時

2012年4月5日 (木) / 2012年4月6日 (金) 両日 13:00-20:00

#### ■会場

スチューデントコモンズ・マッチング型セミナー室

#### ■参加者

1日目：8名 (工・外・医・歯・薬) / 2日目：30名 (その他の学部)

#### ■理念

将来、市民社会で活躍し、世界をより良くする人材を大阪大学から輩出する必要がある。そのために、行動力のあり意識の高い学生を対象に、参加者が、自らの学生生活を主体的にデザインし、かけがえのない大学生活4年間をエンジョイできるよう、意識改革を促すイベントを実施する。

#### ■概要

阪大を代表する、魅力溢れる先輩学生からのプレゼンテーション、先輩学生と新入生とが同じ立場に立って行うディスカッション、そして新入生一人につき先輩が一人付いて行う、キャンパスライフ・デザイン。イベント全体を通して、新入生が将来なりたい自分を再認識し、それに向かって大学生活をどのように活用するか考える機会を提供する。



## ■内容

### 1部：先輩を「知り」、大切なことに「気づく」

魅力溢れる先輩学生がプレゼンターとなり、大学生活を送る上で本当に大切なことを、新入生に提供する機会を提供した。

#### 1. 主体的な大学生活を送るために；末吉紘治（経2）

友達をたくさん作る、大きな夢を探す、想いを行動に変えるという3つの行動指針を示し、充実したキャンパスライフを送ろうと強調することで、新入生のモチベーションを上げた。

#### 2. つまみ食いで拡大する戦場-モタトリアムの使い方-；猪口絢子（法2）

戦場カメラマンになりたいという夢を掴むため、彼女が大学生活をどう使い、何を目標しているのかを、美しい写真を用いてプレゼンし、大きな夢を探す大切さを伝えた。

#### 3. 授業だって楽しもう；田上聡美（理2）

勉強は大学受験で終わり、大学の授業はサボって単位を取るためだけに。そんな風潮と逆行して勉学に打ち込む彼女が、授業を楽しむコツを面白おかしく話をした。

#### 4. 大学名なんてどうでもいい-What you need to do-；板本拓也（基2）

東大に行けずにくよくよしていた彼が、気持ちを切り替え、サンフランシスコでベンチャー経験をし、起業に向けて何を目標しているのかを、共感をベースにプレゼンした。



高校生と大学生との違いを語る末吉君



昨年度のCLDで自分に目覚めた田上さん

### 2部：自らを「語り」、同級生の考えに「驚く」

新入生と先輩たちが一つの大きな円を作り、「大学生とは」をテーマにディスカッションをした。新入生は積極的に発言をし、先輩が議論を上手くコーディネートすることで、大変盛り上がるディスカッションとなった。次に、5グループに分かれ、少人数で「理想の生き方」についてディスカッションをした。3部の大学生活設計に繋がる、価値ある話し合いとなった。





全体ディスカッション、みんな真剣



先輩と真剣に話し合っています

### 3部：目標を「作り」、自らのプランを「磨く」

それまでのイベントで学んだことを共有・整理した後に、新入生一人に対し先輩学生が一人付く形で、新入生に理想のキャンパスライフをデザインしてもらった。将来どんな人になりたいかからスタートし、4年後にどうなりたいか、そのためには今日から何をすべきかとブレイクダウンさせながら、目標と行動指針を明らかにした。そして、作ったプランを全員の前で発表してもらった。今日から挑戦することを皆が堂々と宣言している様子を見、企画者は大変満足で、新入生を頼もしくも感じた。



グループワーク、自分と必死で向き合い中



今日からすることを堂々と宣言！

### 4部：友と「繋がり」、嬉しさに心「ときめく」

イベント終了後、懇親会を行った。連絡先の交換等を通し、新入生同士だけでなく、新入生と先輩スタッフ、そして先輩スタッフ同士が繋がり合う楽しい時間を過ごした。

### 5部：後日「集まり」、みんなが共に「煌めく」

イベント後に再び参加者と企画者が集まる機会を企画し、イベントだけの繋がりには留まらず、皆がこれからも切磋琢磨し合える友人関係となれるようにしていく予定である。



全体責任者の綿谷君



イベント全体の様子



ワニ博士の着ぐるみを使った広報活動



1日目の集合写真

## ■ イベント関係者からの一言

### ○ 企画スタッフの声

- ・私の言動に影響を受ける人がいるのは、嬉しいことでもあると同時に、責任を負わなければならないことなのだと感じました。

### ○ 参加者の声

- ・先輩たちが実際にやってきたことを聞いたので本当によかったです。
- ・いろんな人がいて、もう将来に向けて行動しているのを見て、すごい一言です。
- ・一年生でも、思いと行動次第でこんなに大きなことができるのかと驚きました。
- ・人が考えていることをじっくり聞いたので楽しかった。
- ・中学高校でやってきた形式的なディスカッションとは違って、もっと熱くて夢があって楽しかったです。
- ・自分がやるべきことを明確化できたのでよかったです。
- ・自分を改めて見つけ直すことができ良かった。先輩にも盲点を突かれたというか、自分の目標を考え直すことができました。

- ・今までなんとなく考えていたことを実現のためのプロセスまで明確にできたのですごくためになりました。
- ・みんなの前で宣言することなどはすごく緊張しましたが、良い経験になりました。
- ・輝いている濃い先輩たちと知り合え、前向きな夢を持った同級生に会え、良い刺激をもらえました。
- ・CLDに参加して、これからの4年間が変わったと思います。

#### ○参加者がイベントを知ったきっかけ

履修ガイダンス：21人/先輩から：2人/友達の誘い：2人/ビラ配り：1人/阪大生活（冊子）：3人

#### ■最後に

本年度は、2回生が中心に企画・運営をしてくださいました。イベントを今後も継続させるためには、引き継ぎ作業が非常に大切です。昨年度 CLD に参加してくれた学生たちが、友達を巻き込んで今年度の企画・運営に携わってくれたことが、本年度の一番の成果だと考えています。参加者が次年度の企画者になるこの流れが今後も続き、CLD を通した縦横のネットワークが生涯続くものとなるよう、これからも工夫を凝らしていきます。

（綿谷亮）

#### (4) 「学生 FD サミット・2012 夏」参加報告

■参加者氏名：服部憲児 永井勇氣 佐々木諒 若林魁人 玉井裕之 坂本大地 矢島裕章  
前田裕介

■開催日時：平成 24 年 8 月 25 日・26 日

■会場：立命館大学衣笠キャンパス・敬学館・明学館

■内容：オリエンテーションなど 活動紹介（阪大生報告） 分科会（阪大生パネリスト）  
しゃべり場「学生にとっての主体的な学びとは」 報告 エンディング

■参加者：59 大学・4 団体他・427 人

■コメント：初日は、最初に学生 FD サミットの趣旨説明、参加大学の簡単な活動紹介、学生 FD の説明がなされた。学生参加型 FD の普及に尽力してきた木野茂先生（立命館大学）から、3 月に出された中教審の審議のまとめを引き合いに出し「学生の主体的学びについて考えて欲しい」旨の言葉があった。オープニングの後はブースを設けて各大学の活動紹介が行われた。阪大は学生が 2 回説明を行い、それぞれ 40 名程度の傍聴者があり、多数の質問や意見をいただいた。午後は 2 回に分けて 6 つのテーマ別分科会が行われた。そのうちの 1 つの「学生 FD とキャンパスライフ」では、阪大生がパネラーの 1 名として参加し、学生参加型 FD に関わることで、自分の適性を組織の目標に活かす術が身に付いたこと、大学教育に関する興味関心が増したことなどが報告された。同分科会のパネラーを務めた他大学の OB からは、経験をふまえて、上手くいかないことの方が多いが粘り強く頑張ることが重要という報告がなされた。



2 日目は、冒頭で「しゃべり場」（阪大の「パンキョー革命」イベントに相当）についての説明がなされた後、少人数グループに分かれて「学生にとっての主体的な学びとは」をテーマに話し合いを行った（主催校からの要請により阪大生 2 名がファシリテーターを務めた）。話し合いの結果は、全体会ではなく近隣の 4 グループで報告し合った。「自分で一步踏み出す」ことが必要であること、主体的な学びも様々なレベルがあること、動機づけを高める仕組み（カリキュラム改革、授業改善、ピアサポートなど）が必要であること、学習全体の中での授業の位置付けを明確にすること等が報告された。時間の制約もあったためかとは思いますが、「主体的な学び」が意味するところの吟味をもう少しつっこんで考える必要があったように思われた。

（服部憲児）

## (5) 「ひとこといちば 2012 後期」 実施報告

### ①概要

「ひとこといちば」は、ステューデント・コモンズを利用した学生・教職員の交流の場である。毎週1回昼休みに開放型セミナー室を利用して、教員のミニ・トークや学生団体の紹介などを行っており、学生中心で企画・実施している。

「ひとこといちば」の開催は一時的にストップしていたが、2012年後期から再開した。10月26日から12月17日までに計7回開かれた。

### ②実施の記録

10月26日 太刀掛俊之先生（学生支援センター）（14人+ $\alpha$ ）

「ボランティアってどこまでボランティアなんだろう？」

-東日本大震災ボランティアをきっかけにした私の体験から-

11月12日 田中仁先生（法学研究科）（16人+ $\alpha$ ）

「日中関係を考える」

11月19日 鈴木竜太氏（理学部4回生）&綿谷亮氏（基礎工学研究科 M1）（15人+ $\alpha$ ）

「新しい『世界』へ飛び出そう！」

11月26日 田中仁先生（法学研究科）（7人+ $\alpha$ ）

「日中関係を考える VOL.2」

12月4日 藤田一郎先生（生命機能研究科）（5人+ $\alpha$ ）

「私の出会ったすごい人」

12月10日 小林傳司先生（CSCD）（10人+ $\alpha$ ）

「科学の不確実性：福島・BSE・ラクイラ」

12月17日 下田正先生（理学研究科）（19人+ $\alpha$ ）

「原発問題」

※12月4日（火）以外はすべて月曜に実施した。

※参加人数は途中の出入りがあるため概数である。

※「+ $\alpha$ 」は室外傍観者を表す。

「ひとこといちば 2012 後期」は全体を通して社会問題についてのテーマを扱うことが多かった。アンケートには、「ニュースで日頃聞いている内容を深く知ることができて良かった」などの回答があり、参加した学生にとって良い刺激になっていることが伺える。また、社会問題を取り扱った回は参加者も多く、学生の興味を引いていたようである。

### ③広報について

#### ○ O+PUS

O+PUS を見て来たという人は非常に少ない印象を受けた。実際、アンケートで確認しているのは1人のみ。意外と効果が小さいようである。

○ポスター（5か所）

ポスターはA棟に2枚、B棟に1枚、カルチエに1枚、メインストリート掲示板に1枚貼った。これの宣伝効果はまずまずの印象である。来年度も続けたい。

○チラシ

チラシは毎週の内容に沿ったものではなく、全体のスケジュールの入ったビラのほうが主力になった。これもポスター同様続けていきたい。

○facebook

facebookのイベントページを作成し、多くの人に招待を送ってもらった。御協力いただいた方々に御礼申し上げたい。この宣伝効果は非常に大きかった。

○twitter

来年度からはツイッター係を決めてその人が担当することになった。

○ホームページ

中村征樹先生（全学教育推進機構）をお願いをしてHPを作っていただいた。今後はこれに簡単な「ひとこといちば」実施の様子や募集した質問とその回答を載せる予定である。来年度より本格的に運営を行う。（<http://www.celas.osaka-u.ac.jp/ourwork/hitokoto>）

④課題

十分に参加人数を確保できなかった日もあったので、できるだけ同じ曜日に開催し、継続的に参加してくれる人を逃さないようにしたい。その上でfacebookによる宣伝も適切な時期に行えるようにしたい。

途中から先生への質問という項目をアンケートに盛り込んだ。今期は回収した質問の回答を掲載していないが、今後は質問と回答をHPに掲載する予定である。今期は藤田先生と下田先生から質問への回答を頂いた（HP未掲載）。

⑤アンケート資料

毎回実施したアンケートから記述式を除く部分についてまとめておく。

●所属についての質問の回答

	10月26日	11月12日	11月19日	11月26日	12月4日	12月10日	12月17日
回収枚数	14	16	15	7	2	10	19
学年	-	B1*14 B2*2	B1*6 B2*4 B3*2 M2*2、OB*1	B1*5 B2*2	B1*1 B2*1	B1*5、B2*1 M1*1 教員*1 無回答*1	B1*12 B2*2 B3*1 B4*3、OB*1
学部	基、外、法、 人、理、文	理、基、外、 人、文、経、 法	法、基、理、 外、人、工 学 研究 科、 外国語学部 の OB	理、経、基、 工、文、法	基、外	工、理、薬、 外、法、基	理*10、 工*1、人*2、 法*2、文*2、 外*1 外 OB*1

●どこで知ったかという質問の回答

	10月26日	11月12日	11月19日	11月26日	12月4日	12月10日	12月17日
チラシ・ポスタ	2	3	1	2	0	2	4
HP	0	0	0	0	0	0	0
友達の紹介	7	9	8	3	1	2	1
教職員の紹介	0	0	1	0	0	0	1
Facebook	3	2	5	2	0	3	6
その他	2	2	1	0	1	2	6

●「参加してどうだったか？」という質問の回答

	10月26日	11月12日	11月19日	11月26日	12月4日	12月10日	12月17日	総計
良かった	-	4	8	1	1	7	13	34
やや良かった	-	9	5	2	0	0	5	21
普通	-	1	1	3	0	0	1	6
あまり良くなかった	-	0	1	1	1	0	0	3
良くなかった	-	0	0	0	0	0	0	0

⑥ e-square との連携について

e-square の濱田格雄先生の協力により、来年度から「ひとこといちば」の模様を吹田で生放送する計画がある。吹田キャンパスの先生にお願いする場合には、豊中キャンパスまで来ていただかなくても、e-square で「ひとこといちば」を実施できる可能性がある。今後、実現に向けて検討していきたい。

今期の「ひとこといちば」は多くの方のご協力のおかげで運営することができました。ありがとうございました。特にご協力くださった先生方に深く御礼申し上げます。来年度もまたご協力の程をよろしくお願い致します。

(脇谷海平)



4. 「パンキョー革命」各種活動のチラシ・ポスター類

**阪大を変える！** 第6次 **パンキョー革命**

**世界一に変える！**

阪大の教育をどのように変えていくか、教職員と共に議論を交わし、大学改善案を提案してみませんか？

毎年一度開催されるパンキョー革命で出された提案により、大阪大学が少しずつ変わってきました。一、二回生のみならず、自分のアイデアで大阪大学を世界一に変えてみよう！

**参加特典：懇親会無料！**  
質疑は話すことのできない山内さんや教職員の方々、そして他の参加学生と仲良くなるチャンス！ご飯を食べながら気軽に話してみよう。

**ゲスト講演**  
**世界最高のパンキョーを目指せ！**  
～阪大はスタンフォードを越えられるか～

日本国内すべての大学に加え、米国のトップ大学を訪問された経験のある山内さんが、日本の大学教育に対する危機感、そして大阪大学がどのように変わらなければならないのかについてご講演いただきます。

山内太朗さん

6月28日(木) 14時-17時半 (終了後懇親会)  
学生センター・開放型セミナー室

※途中参加/退出可能。当日飛び入りも若干名可  
参加ご希望の方は、名前・学部・学年・懇親会参加有無を記入して右記のQRコードもしくは wanihakase@cep.osaka-u.ac.jp メールへご連絡

第6次パンキョー革命

**キャンパスライフ・デザイン 2012**  
～120点の充実した大学生生活を送るための新入生ガイダンス～

**1 知る**  
みなさんは大学生活＝サークルバイトと思っていませんか？先輩たちがどんな大学生活を送っているのを知り、大学生活の可能性の大きさを体験しよう！

**2 語る**  
ディスカッションをとおして、先輩たちが他の新入生が何を考えているのを知ることが出来ます。今までの自分にならなくなった、新たな考え方を身につけよう！

**3 創る**  
自分の夢、4年後の理想の姿を考えて、大学生活で何を「したい」のかを考えよう！夢を実現させるために今日から何をすればいいのかが、先輩たちがアドバイスしてくれます。

**4 輝く**  
最高の大学生活の鍵は友達。このガイダンスで夢を語り合った新入生、先輩と友達になろう！学年・学部を超えた出逢いは、一生の宝物になります。五年の参加者も、ここでたくさんのお友達を作りました！

第1回 4月5日 ◆ 第2回 4月6日 両日とも 13:00～18:00  
場所 豊中キャンパス スチューデント・commons →詳細はこちら  
<http://cid2012.blog.fc2.com/>

申し込みは右記のQRコード もしくは cid201204@gmail.com まで  
名前/ふりがな/性別/学部 を記入してお送りください。  
各国先着30名のため、お早めにご予約を！  
当日は、左ページを記入の上、この冊子を右持ち帰りください。

キャンパスライフ・デザイン 2012

授業の合間のランチタイム。せつかくだから、一緒におしゃべりしませんか？

ひとこといちば、おおにぎわい。

**毎週月曜日**  
12:10 ~ 12:50  
@学生センター  
1F 開放型セミナー室

好評開催中！

テーマ (予定)  
12月  
10日 「科学の不確実性：BSE・福島・ラクイラ」  
小林博司先生 (CSCD)  
17日 「原発問題」(仮)  
下田正先生 (物理学研究科)

※プログラムは予告なく変更することがあります。  
【主催】パンキョー革命実行委員会  
【協賛】全国教育推進機構理事三宅昭弘氏・ED推進委員会

ひとこといちば

**パンキョー革命**

**提議書 II**

パンキョー革命提議書 II



## 5. 「パンキョー革命」関連文章類

### (1)平成 24 年度分

- ①服部憲児「学生参加型 FD・教育改善の盛衰に関する研究」『大阪大学人間科学研究科紀要』第 39 巻（平成 25 年 3 月）。
- ②服部憲児「学生参加型 FD・教育改善にみられる共通特性」『大阪大学高等教育研究』第 1 号（平成 25 年 3 月）。
- ③大阪大学パンキョー革命推進チーム『パンキョー革命提議書Ⅱ』（平成 25 年 2 月）。

### (2)平成 23 年度までの関連文献

- ①大阪大学大学教育実践センター学生参加型 FD 推進委員会編『「パンキョー革命」報告書（2011）』（平成 24 年 3 月）\*。
- ②大阪大学パンキョー革命推進チーム「阪大生活（共通教育だより別冊）」vol.1（平成 24 年 3 月）。
- ③服部憲児「パンキョー革命」木野茂編『大学を変える、学生が変わる：学生 FD ハンドブック』（ナカニシヤ出版、平成 24 年 3 月）。（コラムを吉岡貴史・矢島裕章が執筆）
- ④服部憲児「学生参加型 FD の現状と実践上の課題」『大阪大学人間科学研究科紀要』第 38 巻（平成 24 年 3 月）。
- ⑤服部憲児「新入生の授業選択の情報源に関する研究—大阪大学の教養教育科目を中心に—」『大阪大学大学教育実践センター紀要』第 8 号（平成 24 年 3 月）。
- ⑥「週刊東洋経済」2011 年 10 月 22 日号（東洋経済新報社、平成 23 年 10 月）。（少しだけですが触られています）
- ⑦服部憲児・岡部誠・菱田伊駒「大阪大学における『パンキョー革命』（学生・教職員懇談会）の成果・課題・展望」大学コンソーシアム京都『組織的 FD の取り組み～FD 義務化から現在（いま）～（第 16 回 FD フォーラム報告集）』（平成 23 年 6 月）
- ⑧大阪大学大学教育実践センター学生参加型 FD 推進委員会編『「パンキョー革命」「ひとこといちば」「ワニバス」報告書（2010）』（平成 23 年 3 月）\*。
- ⑨早田幸政・諸星裕・青野透編『高等教育論入門』（ミネルヴァ書房、平成 22 年 11 月）。
- ⑩大阪大学大学教育実践センター『パンキョー革命（学生・教職員懇談会）報告書』（平成 22 年 3 月）\*。
- ⑪大阪大学「パンキョー革命」推進チーム『「パンキョー革命」提議書—大阪大学の共通教育に関する提議書—』（平成 22 年 2 月）\*。
- ⑫服部憲児・山成数明「共通教育を熱く語る！—第 1 回学生・教員懇談会—の実施と分析」『大阪大学大学教育実践センター紀要』第 5 号（平成 21 年 3 月）。
- ⑬服部憲児「大阪大学の FD 活動」神戸大学大学教育推進機構『大学教育研究』第 17 号（平成 20 年 9 月）。

「※」は <http://www.cep.osaka-u.ac.jp/ourwork/withstudents/pankyo> よりダウンロード可能。

## 6. 「パンキョー革命」に関連する活動等

### (1) 「共通教育プロジェクトルーム」の新設

平成 24 年度に「共通教育プロジェクトルーム」(プロジェクトルーム)が新設された。このプロジェクトルームは、大阪大学の教育・学習力を発展させるため、学生または学生・教職員共同による共通教育の改善ならびに学習意欲の向上に資するプロジェクトを推進するための場として、全学教育推進機構により設置された。学生の創意工夫や自発性を活かして共通教育における教育・学習の効果を高めるための活動に対して、効率的にプロジェクトが推進できる支援を行うこと、また、このような課外活動に積極的に関わることにより、学生の「教養」「デザイン力」「国際性」を涵養することを目的としている。

これらの趣旨に沿った活動をする阪大生の団体であれば、審査の上、一定の期間を活動に使用することができる。パンキョー革命推進チームも、今年度よりここを拠点に活動を行っている。



### (2) 「双方向型シラバス (ワニバス)」作成プロジェクトの進捗状況

「双方向型シラバス (ワニバス)」とは、正確ではあるが学生にとって分かりにくいシラバスと、明解で面白いが単位をいかに楽に取れるかが基準の「クロバス」、双方の短所を克服し、長所を併せ持ち、双方向性も有した新しいタイプのシラバスである。大阪大学のキャラクターである「ワニ博士」に因んで、この新しいタイプのシラバスを「ワニバス」と名付けている。平成 23 年度後期から Web 版の作成に取り組んでいる。大枠はできているが、運用の方法や細部の決定など、いくつかの検討事項が残っている。

平成 24 年度メンバー

学生：河口恵 (薬学部 2 回生) 筒井正斗 (理学部 2 回生)

教員：服部憲児 (全学教育推進機構准教授) 中村征樹 (全学教育推進機構准教授)

職員：畠中雅子 (全学教育推進機構ガイダンス室)

### (3) 「阪大生活」改訂版

昨年度発行した「阪大生活」であるが、今年度は、全学教育推進機構・広報委員会が学生の協力を得て一部内容を修正し、改訂版を発行する (本稿執筆時点で作成中)。

## 「パンキョー革命」推進チーム・平成24年度メンバー

### 学生・院生

佐々木諒（経済学部 1 回生）  
長者原翼（人間科学部 1 回生）  
脇谷海平（基礎工学部 1 回生）  
若林魁人（基礎工学部 1 回生）  
大杉明日香（法学部 2 回生）  
玉井裕之（工学部 2 回生）  
中西翔太郎（法学部 2 回生）  
松延徹人（基礎工学部 2 回生）  
坂本大地（法学部 4 回生）  
矢島裕章（文学部 4 回生）  
綿谷亮（基礎工学研究科 M1）  
前田裕介（人間科学研究科 D1）

### 教員

服部憲児（全学教育推進機構准教授）  
中村征樹（全学教育推進機構准教授）  
小島理永（全学教育推進機構助教）  
山口和也（全学教育推進機構教授）

### 職員

小坂章洋（全学教育推進機構等教務係）  
永井勇氣（全学教育推進機構等教務係）

### TA

朴晃一（経済学研究科 D3）

### 大阪大学 全学教育推進機構 学生参加型FD推進委員会

服部憲児（全学教育推進機構准教授）  
中村征樹（全学教育推進機構准教授）  
小島理永（全学教育推進機構助教）

「パンキョー革命」報告書(2012)

著 者 大阪大学 全学教育推進機構 学生参加型 FD 推進委員会  
発 行 日 平成25(2013)年 3 月 2 日





**大阪大学 全学教育推進機構 学生参加型FD推進委員会**